

## 押熊八幡神社

押熊八幡神社は、奈良の主要観光地からは離れた市内北西部、郊外の住宅地とかつての農村風景が混在するエリアである「押熊」地域の氏神様として地域の深い崇敬を集める神社です。八幡神社であることから本殿のご祭神は八幡大神（応仁天皇・誉田別命）を祀ります。歴史としては、境内の案内板によると南側に現在も存在する「中山八幡神社」から江戸時代中頃の元禄期にこの押熊の地に勧請が行われたと考えられているほか、明治維新の時期に神仏分離が行われるまでは、境内に宮寺である「福成寺」があったとされています。なお、現在も境内に存在する龍王神社については、元禄期の勧請まではむしろ主祭神としてこの地に祀られていたともされ、中山八幡神社からの分霊が行われた後に主祭神が逆転する形になったとも考えられています。境内は立派流造檜葺の立派な社殿建築や参道、うっそうとした社叢（鎮守の森）があるなど地域の深い信仰の歴史が伺えるようになっているほか、末社（境内社）が複数あるなど規模が大きな神社にもなっています。境内社とし

ては鹿島神社（祭神武御雷神）・市杵嶋神社（祭神市杵嶋姫）・木花開耶姫神社（祭神木花開耶姫）が本殿脇に並んでいるほか、八大龍王神社（祭神豊玉比古命）・稻荷神社（祭神稻倉魂命）・雨乞いの神として信仰を受ける「こうずいさん（鳴雷神社）」、また伝承としては仲哀天皇の皇子「忍熊皇子（おしくまのみこ）」の古墳であるとも言われる「忍熊王子社」もあります。なお、「押熊（おしくま）」という地名は奈良の北の端にあるという意味合いから生まれたとされ、忍熊皇子信仰については後から「おしくま」の読みになんで生まれたものともされています。八幡神社自体は観光スポットとして機能している訳ではなく知名度の高い空間ではありませんが、歴史や神社が好きな方は比較的遠方からも訪れる方がおられるようで、神社に設置されている参拝者芳名帳には、様々な場所から訪れた参拝者のお名前がずらりと記されています



## 中山八幡神社の由来

中山町の八幡神社は、古来から氏神さま鎮守さまとも申し上げ、地域住民の守護神として、靈験あらたかな八幡大神を主神とする神々を祭祀し、世々代々から宮司、神主、おとな衆等々によって五穀豊穡をはじめ身体の健全、家運の隆昌、学業の成就、交通安全等々を祈願し、ご神徳の高揚に専念奉仕しています。

なお、よろずの願い事につきましては、いつでもご自由に参拝してご守護していただき、また、可愛いお子さまのお宮参り、七五三参り、そして、初詣、秋祭、大祭にはご家族お揃いでご参拝ください。

### 神社略記

由緒

本殿の建築様式は、一間社流造り、銅板葺であり、その前扉を開ける鍵の柄に「永正九壬申二月吉日」(一五二二)と、また、本殿前方向かって右の石燈籠に「永禄九年」(一五六六)と刻印されていることから室町時代に創建されたものと推定されています。

このことから、本殿は、昭和四十三年二月二十三日づけ奈良県文化財に指定され、その際、古い鉄鍵一個も指定されています。

### ご祭神

本殿 八幡大神(応神天皇、誉田別命)

大津社 天照皇大神(本殿に向かって右)

春日社 天児屋根命(同左)

金毘羅社 大物主命(拝殿石段下)

### ご祭日

元旦祭(一月一日)

とんど祭(一月第二土曜日)

節分祭(二月三日)

おんだ祭・結縁の儀式(二月十一日)

春の大祭・荘厳の儀式(三月第二日曜日)

金毘羅祭(七月十日)

秋祭宵宮(本宮の前日) 百灯明(同、午後五時より)

秋祭本宮(十月第二日曜日)

秋の大祭・新嘗祭(十一月二十三日)

月次祭(毎月一日・十五日)